貴社のソフトウェアは サイバー犯罪に対応し きれますか?

サードパーティのサポートやセルフメンテナンスでは、完全に 犯罪から保護することは出来ません一本当のソリューションが ここにあります。

サイバー犯罪は実在します

2027年までに予測される世界中のサイバー犯罪被害の年間コスト



サイバー攻撃やデータ漏えいは指数関数的 に増え続けています²

世界平均コスト

2024年のデータ漏えい被害の

488万ドル

ランサムウェア攻撃

あらゆる業界に影響を及ぼす絶え間ない 脅威4

多くのビジネスがこの影響から立ち直ることができません













機密的專有情報

企業に対する評価 顧客や やブランドの被害 社員の信頼

サードパーティのサポートプロバイダーや、セルフ メンテナンスセキュリティ方法にごまかされない ようにしましょう

「仮想パッチ」は実際の パッチではない

仮想パッチは応急処置であり、ソフトウェア を実際にパッチしたリアップデートするもの ではありません。

- 暫定的ソリューション
- 根本的な問題の放置
- 脆弱性の全容の無視

米国 国土安全保障省

「潜在的な脅威に対して適切な予防 措置が取られているかを確認する、 強固で継続的なパッチ管理プロセスを 確立するとは、全ての組織にとって 不可欠な事項です。」

https://www.cisa.gov/

「総合的なセキュリティ」は完全ではない; ファイアウォールは万全ではない

ペリメータに集中したセキュリティ戦略では、ソフトウェア は攻撃に対して脆弱になります。

- 内部漏洩の影響を受けやすい
- ネットワークの脅威に対する可視性の制限
- ソフトウェアの実際のセキュリティを無視

EU一般データ保護規則

データプライバシーを高め、個人データおよびデータ処理のセキュリ ティを確保する様々な規則

- 2018年5月25日施行

欧州連合居住者のデ

非遵守および違反の場合は多額の違反金が発生することがある

data-protection-rules_en

セルフメンテナンス=潜在的責任 自社のメンテナンスは、ソフトウェアを重要なセキュリティアップデートから 隔離してしまう恐れがあります。

-タを扱う全ての組織に該当

- 多くの脆弱性を(法的に)修正する力がない 新規パッチやアップデートへアクセスできない •
- 確実にメンテナンスや保護を行う際の制限されたリソース

要点

セキュリティパッチは、 Oracleを含めた企業ソフト ウェアの保護に必要不可欠 なものです。コードにアクヤス出来ないと、そのための パッチを開発することができ これによって貴社の 脆弱になり、また貴社ビジネスをリスクに晒すことになり ます。

セルフメンテナンス

サードパーティサポート

- 不十分なセキュリティ更新 ▶ 不十分なセキュリティ修正
- 不十分な脆弱性に対する 保護

9

Oracle サポートで、Oracle のソフトウェアを保護 しましょう

Oracle サポートは、貴社のOracle ソフトウェアがミッションクリティカルなセキュリティアップデートや保護を法的に受ける最適な方法です。

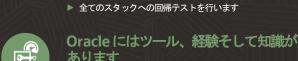


Oracle はソー -スコードを作成、所有 脆弱性および発生する脅威の発信源の認識および対処が

できます ▶ 信頼できるソースのセキュリティアップデートを実行します



- Oracle は全レベルに対して
- セキュリティを提供 ソフトウェアスタックの全ての階層をパッチします



積極的な変更管理のプロセス

- あります
- 統一したリリース管理のプロセス 信頼された継続的かつ前例のないイノベーション

Oracle を最大限活用しましょう。

貴社ビジネスが脅威に直面した際、信頼され、安全 かつ包括的なサポートに代わるものはありません。